

品質管理基本

～全員参加で、QC的思考方による問題解決！～

生産性向上支援訓練



愛知県鍍金工業組合では、平成29年度より3年目となる生産性向上支援訓練を 今年度は若手従業員を中心に、不良や不具合の原因究明・分析方法などを学ぶため、『品質管理基本』を開催。10月19日（土）及び11月16日（土）の両日、名古屋市工業研究所において16名の参加者の講義を行ってくださったのは、KWPコンサル株式会社 代表取締役 本多貴治氏。

氏は3年に亘り生産性向上支援訓練の講師を務めており、生産管理・品質管理・ISO9001審査活動など幅広い分野で活躍している「カイゼンのスペシャリスト」です。

1日目の講義は、【品質データの分析方法及び評価方法を理解する】ため、

1. 品質管理の考え方
2. QCサークル活動
3. QC7つ道具と使い方

演習では、QC7つ道具の中からパレート図及びヒストグラムを手書きとパソコンExcelにより作成を行った。





2日目は、QCサークル活動の意義を復習。その後、会社の不良解析等のパレート図やヒストグラムなどを持参した受講者が発表。ある事業所では、「不良の見える化」を進めるため、従業員へ聞き取りをしたことによりコミュニケーションが取れ、不良における現場の理解を深める事が出来、不良数の減少が見ら

れたと発表。グラフにすることで分かり易く、見えることで今後の目標が定まりそれに向かってメンバー（従業員）の心が一つになる。これこそがQCサークル活動の基本理念である「生きがいのある明るい職場をつくる」だ。このような活動を進めていくと、不良に対して、もっと掘り下げて要因解析、対策立案・実施へと、問題解決につながっていくことになる。問題解決型QCストーリー展開の山場が、テーマ選定、現状把握、目標設定を経ての要因解析ステップである。

午後は、グループ毎に【特性要因図】を作成することに。上流ステップで絞り込んだ特性に対して、その要因を各自が付箋に書き出し貼り出していく。それらをグループ毎のテーマに対して適切と思われる大骨を工夫し、時には、後戻りや再構成も試みつつ、2時間後にはB紙に魚の骨【特性要因図】の骨格が表現され、4グループがそれぞれ途中段階において、思考の過程や重要要因候補について発表した。

一つのめっきラインで発生するキズ不良を焦点にあてたものから異物混入など様々なテーマに沿って要因を探る。沢山の付箋が貼られており、活発な意見交換ができたことを確認。本多先生より、「1回の会合で片付けるのではなく、実際には、『この【特性要因図】をこのまま掲示しておきま



す。また来週討議しましょう』などと、時間をかけ、また、関わる周りのメンバーの参画を促すと良いですね」と。他の人が見ることにより違う意見も出る。また、メンバーも1週間経てばもっと掘り下げて要因を究明し、問題解決（不良減少）に繋がる。一緒に解決したことで従業員同士の絆が深まり、「生きがいのある明るい職場をつくる」目標達成となります。

この2日間を通し16名の受講生の絆も深まり、今後、各々の会社でQCサークル活動を活発に展開していることを期待いたします。お疲れさまでした。

